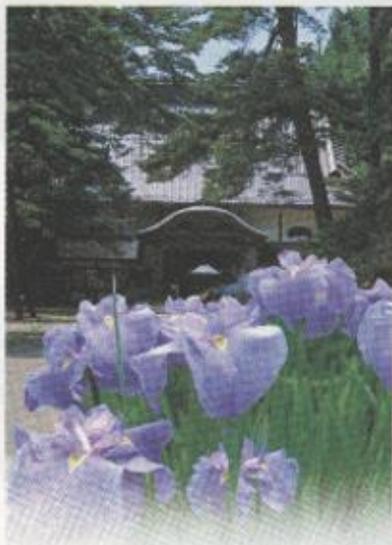


毛越寺

特別史跡・特別名勝
もう一つ



毛越寺事務局

〒020-0441 岩手県平泉町字大久保
TEL 0191-461-3331(代)

毛越寺宿院

毛越寺ユースホステル

TEL 0191-461-3331

重要無形民俗文化財

毛越寺の延年



京殿舞(きょうどまい)

「延年」とは、齡を延べるということで、転じて諸大寺の法会のあとに、僧侶らによって催された遊宴歌舞の総称として用いられた。平安期から室町期にかけて盛んに行なわれた。毛越寺の延年は、正月の二十日夜祭に、常行三昧供修法の後、法楽として舞われ、祝詞・唐拍子・田楽・花折・玉母が昔・若女禰宜舞・勅使舞・迦陵頻・留鳥・卒都婆小町・女良花・伯母捨山などがあり、古い形を残していることで知られ、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

毛越寺境内拝観・巡覧のしるべ

■ **本堂** 毛越寺一山十八坊の本坊。本尊薬師如来(平安時代作)脇士日光・月光両菩薩を安置。

■ **開山堂**(かいざんどう) 毛越寺開山慈覚大師をおまつりするお堂で他に両界大日如来像、藤原三代の画像を安置。

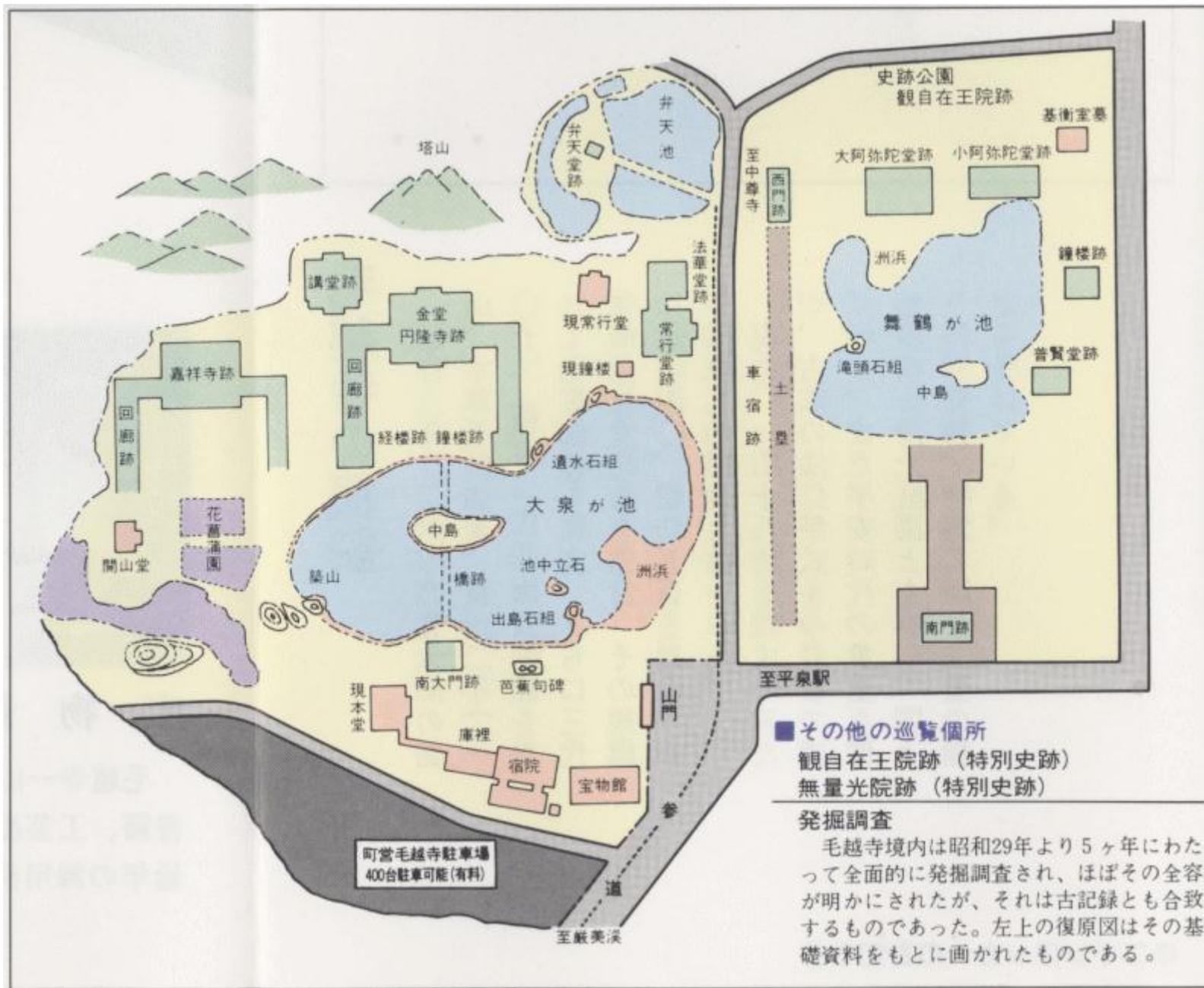
■ **常行堂**(じょうぎょうどう) この堂は享保十七年(一七三二)、仙台藩主伊達吉村公の再建。本尊宝冠の阿弥陀如来、脇士四菩薩、奥殿に摩多羅神をまつる。祭礼は正月二十日で、古式の修法と、法楽として重要無形民俗文化財「延年の舞」が奉納される。

■ **鐘楼**(しゅうろう) 鐘の铸造は人間国宝香取正彦氏、銘は天台座主山田恵諦大僧正。時代を奈良平安に徴し、姿の美しい平等院風を加味した鐘で、音色も極めてよい。

■ **芭蕉**(ばしゅう) **句碑** 元禄二年(一六八九)旧五月、平泉を訪れて詠んだ「夏草や、兵共(つわものども)が夢の跡」の句碑。

左の低い碑が芭蕉の真筆を刻んだもので、右は文化三年(一八〇六)に建てた副碑。

■ **南大門**(なんだいまん) **跡** 二階惣門ともいい、両脇に仁王像を安置し、正面に「金堂円隆寺」の勅額を掲げ、門の東西に築地塀がめぐらされていた。礎石十二個が完存する。



■ その他の巡覧個所

観自在王院跡 (特別史跡)

無量光院跡 (特別史跡)

発掘調査

毛越寺境内は昭和29年より5ヶ年にわたって全面的に発掘調査され、ほぼその全容が明かにされたが、それは古記録とも合致するものであった。左上の復原図はその基礎資料をもとに画かれたものである。

特別史跡 特別名勝

広大な毛越寺境内には、かつて金堂・円隆寺を初めとして、嘉祥寺、講堂、常行堂、法華堂、経楼、鐘楼、南大門などの諸堂宇が建ち並び、その前面に大泉が池を中心とする浄土庭園が造営された。

いま堂塔伽藍こそ焼失したが、当時の土塁、堂宇・回廊の基壇、礎石などを残し、平安時代の伽藍様式を知る上で、最も貴重な遺構として保存されている。また浄水をたたえる大泉が池と中島、その周囲には洲浜、荒磯風の水分け・浪返しにあたる姿の立石、出島・築山・遣水の石組等を配し、この浄土庭園は四囲の借景と相まって、八百年を経た今日、変わらぬ美しさを見せ、平安時代の作庭様式を残す、日本最古の庭園として知られる。

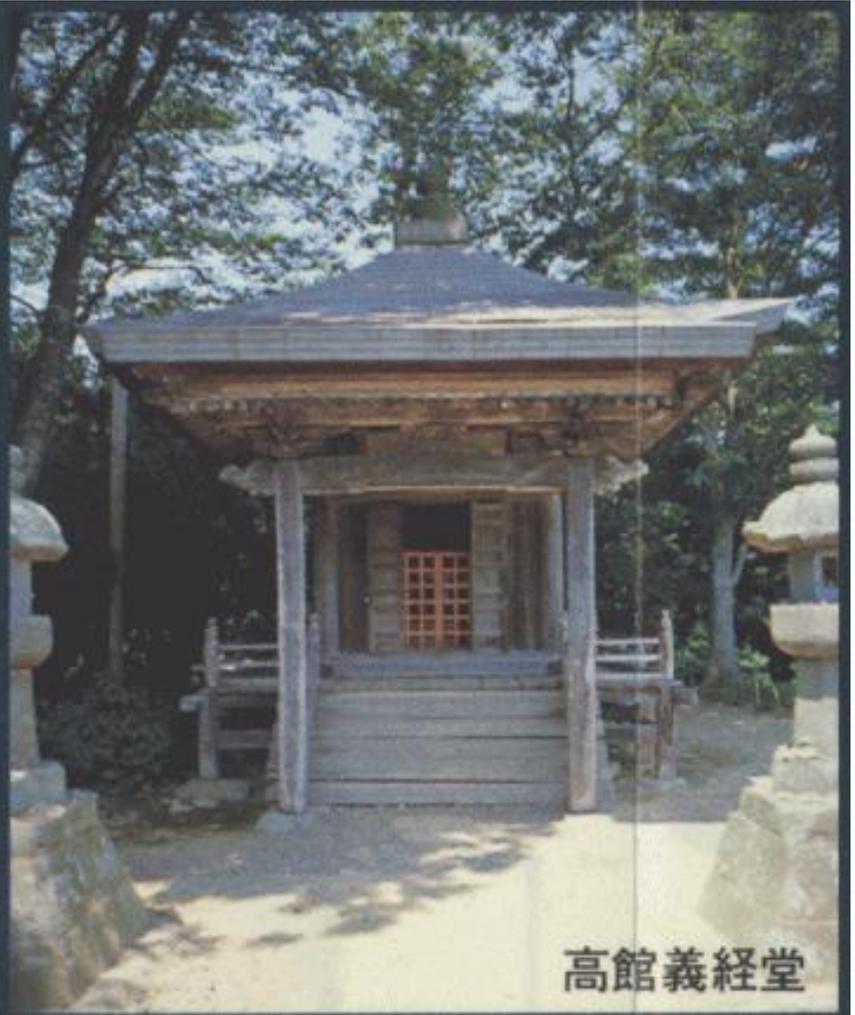


浄土庭園・大泉が池



常行堂

義経最期の地



高館義経堂



花の寺

桜・つつじ・蓮・萩・山吹
と様々な草木が、庭園に
圓窓の彩りをそえ、中で
舞「花しょうぶ」は見事で、
訪れる人の目を楽しませてく
れる。見頃に合わせて「あや
かしの舞」が開催される。
(9/20~7/16)



宝物館

毛越寺一山に伝わる、平安期の仏像、
書籍、工芸品、発掘遺品、調査資料、
延年の舞用具等を陳列している。